

JA福島さくらのイメージキャラを考案

短期大学部生活芸術学科2年坂井智絵さんが考案した「さくらちゃん」がJA福島さくらの公式キャラクターに採用された。本学園とJA福島さくらは昨年8月包括的連携協定を結んでいる関係で学園内の30点の応募の中から坂井さんの作品が選ばれた。

発表セレモニーはJA福島さくら本店で行われた。坂井さんがデザインについて説明し、「皆さんに愛されるキャラクターになつてほしい」と結城組合長にパネルを手渡した。JA結城政美組合長から坂井さんに表



結城組合長と「さくらちゃん」を考案した坂井さん

彰状、関口理事長に寄付金が手渡された。

就職部



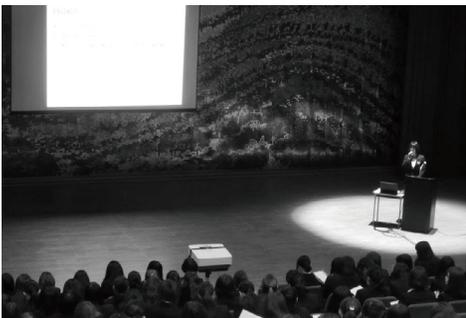
今年度の就職状況は求人数の増加もあり、就職率は昨年同月よりも大学・短大共に上昇している。現在4年生・2年生の未内定者対策を行っており、3月の卒業までには全員内定を視野に入れている。また、並行して大学3年生・1年生は就職登録カードに基づき個別面談を11月中旬から1月末まで実施していく。面談結果は、これからの就職支援や職場開拓に役立て、学生の満足度を高めていきたい。

先日行われた第3回就職ガイダンスでは人間生活学科卒(平成11年度)で人事担当をしている佐藤春奈氏の講演を行った。女性としての働き方や周りの人を巻き込んでひとつのことを成し遂げていく生き方に共感したという学生の感想が寄せられた。同時に、情報誌による情報収集では、同業他社の研究、アウトプットで自分の伝え方を学ぶ。就職ガイダンスは第4回模擬面接・第5回

就職内定者の発表、大学はグループディスカッション形式で行う。

就職活動は熱意を持つて取り組んでほしい。それが人事担当者に伝わり、採用に繋がる事例もある。また、視野をひろげるチャンスでもあり、情報収集、企業研究をしっかり行い、自分が納得した就職先を選んでほしい。

今後、労働人口の減少が進み、変化の生じる将来に備えて、いかに成長できるか、自分自身を見つめ直して企業選びの軸をしっかり考える機会でもある。



第3回就職ガイダンスで講演する佐藤さん(平成11年度人間生活学科卒)

郡山女子大学 オリジナル弁当販売

大学食物栄養学科の学生が考案したオリジナル弁当が販売され、人気を集めた。地元の魅力ある農産物と、郡山市のブランド米「あさか舞」を使い、10月25日〜31日までと、11月8日〜14日までの2期間にわたり、郡山市久留米JA福島さくら旬の庭久留米店で販売された。

本学園はJA福島さくらと連携協定を締結し、昨年から実施。大学食物栄養学科2年生75人がオリジナルのメニューを考え、諸橋瑞歩さんの「秋のちらし寿司」、渡辺静紅さんの「鶏井」、荒谷美里さんの「味噌からあげ弁当」、橋本梢さんの「パフエティ弁当」の4品が販売された。それぞれ税込500円で、初日は4人が店頭で弁当をPR。15分で完売した。



商品化されたお弁当を考案した左から荒谷さん、諸橋さん、橋本さん、渡辺さん

実りの秋を実感

郡山市三穂田町川田地区で附属高校食物科の生徒80人と附属幼稚園の園児29人が10月11日、稲刈りを行い、実りの秋を実感しながら心地よい汗を流した。

この催しは、調理師免許の取得を目指す生徒に、食に関する関心を高めてもらうと昨年同様、JA福島さくらの協力で行われている。生徒たちは、5月に田植えしたコシヒカリを収穫した。JA福島さくらの職員から「イイネ」と、お褒めの言葉を頂き満足な様子だった。

卒業研究発表会始まる

大学人間生活学科 福祉コースの第28回卒業研究発表会と生活総合コース・建築デザインコースの中間発表会が10月27日に。大学食物栄養学科の第49回卒業研究発表会が11月17日にそれぞれ行われた。発表者と研究題名は次の通り。

- 【人間生活学科 福祉コース】
 - ▽原発事故による被災住民の生活の課題―葛尾村の高齢者への住民インテビューより― 大河原 亜希
 - ▽ひとり親家庭が抱える問題に関する研究―母子家庭を中心として― 遠藤 佳奈
 - ▽在宅高齢者の食生活に関する研究―郡山市で生活する高齢者の事例から― 渡邊 幹世
 - ▽過疎地域の高齢者の生活に関する課題―福島県双葉郡葛尾村の事例を中心として― 清水 雅恵
 - ▽通所施設中心生活は「ちよつどよい」生活―知的障害者支援施設を利用している本人と親の気持ち― 橋本 愛
 - ▽高齢者の余暇―余暇と認知症の関連性― 松井 涼香
 - ▽「触れるケア」によって精神的ストレスの軽減を図る―うつ傾向の高い高齢者を対象として― 富塚 郁実
 - ▽家族介護者のQOL向上につなげるレスパイトケア―二本松市のソーシャルサポートの現状から― 佐藤 美樹
- 【人間生活学科 生活総合コース】
 - ▽鮫川村の地域活性化に関する検討 小松 有子
 - ▽生活者視点からみた郡山市の都市公園の現状と課題 佐藤 愛美
 - ▽若年雇用問題に対する効果的なキャリア教育の検討―省庁間の政策比較を通して― 鈴木 久絵

較を通して―

- ▽教育現場における「子どもの貧困」の認識に関する研究―東京都足立区の貧困対策を通して― 増子 恵美
- ▽明治時代に見る髪形・髪飾りについて 矢吹 鞠奈
- ▽社会背景から見るロリータファッションの今と昔 國分奈津美

- 【人間生活学科 建築デザインコース】
 - ▽窓の歴史の変遷と住宅窓の機能及びデザインに関する研究 三瓶 栞
 - ▽伝統的木造住宅に学ぶ安らぎの空間―地域工務店の技術と役割― 遠藤ちさと
 - ▽都道府県における木材利用の動向と今後の展望―福島県産材の利用促進をめざして― 吉田 朝美
 - ▽栃木県日光にみる接収ホテルの実態とその特徴 斎藤 清楓
 - ▽近代教会建築における和風意匠の採用とその形式―日本化した教会堂建築― 長嶺 麻衣
- 【大学・食物栄養学科】
 - ▽本学の学生における中食利用の実態 土屋 裕紀/穂積 春乃
 - ▽エピガロカテキンゲレート脂肪肝モデル細胞に及ぼす影響 小澤 径子/芳賀 智帆
 - ▽自伝的記憶の想起に及ぼす匂いの影響 桑名 満希/佐藤 歩実/山田真由美
 - ▽前向き記憶の定着に及ぼす匂いの影響 佐藤比奈子/須藤 瑠南/木村 静華
 - ▽寮の食事の放射線について 渡部 里美
 - ▽農薬の分解物の変異原性 秋葉 友里/佐藤 菜海
 - ▽田村市産エゴマの収穫方法による成分の違い 松村 優佳/渡部 美咲
 - ▽葛尾村での取り組み報告―女子大

- 農場でのエゴマ栽培ならびに商品開発について―
- ▽大和田景子/熊谷 優希/塩田 彬
- ▽新栄町(須賀川市)の生活習慣と食生活に関する調査 平河内汐美/星 春花/武田めぐみ
- ▽保護者の食生活が幼児へ与える影響についての調査研究 菊池 遙/古川 千秋
- ▽ウイスキーを用いたデザートの開発と嗜好性について 長瀬 千波
- ▽女子大生におけるトーチ(TORCH)症候群の認知度について 石森 朱莉
- ▽乳幼児期と成人期(女子大学生)の体格指数の関連性について 緑川 遼/横山 園美/二瓶 真紀
- ▽血液透析患者の食生活に関する調査 井上 絢乃/田中 茜/真壁あき
- ▽糖尿病の食事療法と菊芋の活用 長谷川真美/村上あずさ
- ▽減塩醤油の継続使用による塩味嗜好の変化について 高橋 幸花/和泉 瑠夏/江口 愛美
- ▽減塩醤油を調味資材とした浅漬け風味調味野菜の開発 大沼 佳乃/三浦 里花
- ▽郡山市の子どもたちの食生活に関する実態調査(4) 佐藤絵梨華/高橋 麻衣/平野 有起
- ▽給食の食へ残しおよび給食の楽しさとQOLの関連性 工藤 実花/森 有沙
- ▽中学生の栄養摂取状況と不定愁訴の関連について 江田ひかる
- ▽栄養のプロフェッショナル―在宅訪問で活躍する栄養士― 鈴木 美咲/橋本 真奈
- ▽附属高校卓球部における栄養サポート…補食強化編― 鈴木 未来/福田 嘉菜/吉田 朱里
- ▽女子大生の摂食傾向と運動・間食・肥満意識・BMIとの関わりについて 齋藤朱加/藤原里実/宮澤知里
- ▽骨密度に影響する生活習慣について 矢尾 秋香

春高バレー2年連続19回目出場 目指すはベスト8!!

第70回全日本バレーボール高校選手権(春高バレー)県代表決定戦を兼ねた第45回FTV杯争奪バレーボール選抜優勝大会が11月25日、福島市国体記念体育館で行われ、附属高校バレーボール部が聖光学院を3-0で破り、2年連続19回目の優勝を飾った。4月からの大会を通して1セットも落とさない完全優勝だった。

来年1月4日から東京体育館で行われる全国大会に出場、高知南と対戦する。

▽準々決勝

郡山女子大附属

2-0 光南

▽準決勝

郡山女子大附属2-0 田村

▽決勝

郡山女子大附属3-0 聖光学院



春高バレー全国大会に出場する26名の部員

メンバー表		
名	前	学年
橋本	美久	3年
橋本	菜々	3年
野原	彩衣	3年
佐藤	菜菜	3年
菅野	日菜	3年
岡部	花歩	3年
細山	凜	3年
上原	成未	3年
永山	朋美	3年
田母神	薫乃	3年



大活躍した2年 目黒愛梨

メンバー表		
名	前	学年
井上	芙蓉	2年
目黒	愛梨	2年
佐藤	麗奈	2年
樋口	あや子	2年
上石	優花	2年
鈴木	優里菜	2年
朝倉	未来	1年
鯉淵	千夏	1年
佐藤	愛海	1年
有明	愛祐香	1年
吉田	里乃	1年
伊野	佑香	1年
加藤	百華	1年
山田	あずさ	1年
大塚	萌華	1年
宗像	南頼	1年



第55回県高校ハンドボール選手権大会

4年連続4回目の優勝

▽1回戦

郡山女子大附属37-10 福島商業

▽準決勝

郡山女子大附属37-7 須賀川

▽準決勝

郡山女子大附属24-16 学法福島



優勝したハンドボール部

▽決勝
郡山女子大附属27-20 いわき総合

第56回県高校新人卓球大会

▽学校対抗 2位

*第41回東北高等学校選抜卓球大会に出場。(1月26日から・秋田市)

▽ダブルス 3位

國分 陽奈・伊藤 笑

▽シングルス 3位

國分 陽奈

*この大会の結果により、國分・伊藤両選手が東北卓球連盟強化合宿の県代表に選ばれた。

天皇杯・皇后杯 平成29年度 全日本卓球選手権大会

▽ジュニア女子シングルス

福島県代表 國分 陽奈

新役員決まる

【大学学友会】

会長 阿部優子(食栄・2年)

副会長 伊藤水葉(食栄・2年)

副会長 小林美乃(人生・2年)

総務部長 増子夏海(食栄・1年)

書記 高橋寿実(食栄・2年)

書記 酒井 梢(人生・2年)

書記 阿部瑞希(食栄・1年)

書記 遠藤沙綾(食栄・1年)

庶務 阿部志織(食栄・1年)

文化部長 佐藤朱莉(食栄・1年)

文化部長 大島潤華(食栄・2年)

厚生部長 渡辺静紅(食栄・2年)

【短期大学部学友会】

会長 青田 望(幼教・1年)

副会長 斎藤真央(食物・1年)

【附属高校生徒会】

会長 酒井和泉(2年)

副会長 渡邊美空(2年)

副会長 佐藤 結(2年)

書記 渡部舞香(2年)

書記 沼田清香(1年)

書記 長岡優菜(1年)

書記 佐々かえで(1年)

書記 井上ゆう(1年)

グローバル・レディ 育成研修に参加して



大学 緑川 愛
人間生活学科 3年

8月28日から8日間、私はグローバル・レディ育成研修に参加し、ハワイのマウイ島に4日間、ホノルルに2日間滞在しました。初日はマウイ島の首長を訪問してハワイと福島の繋がりについて学びました。2〜4日目はハワイ大学マウイコミュニティカレッジで英語研修を行い、現地の先生方に日常会話やハワイの歴史・文化について教えて頂く等、日本とは全く異なる環境下で学習体験をすることが出来ました。また、滞在中はホストファミリーにお世話になり、食文化や生活習慣を学ばせて頂いただけでなく、英語が乏しい私達を温かく受け入れて頂いたことがとても嬉しかったです。5〜6日目はホノルルに滞在し、真珠湾に行つてミズーリ号を見学しました。ここでは降伏文書調印式が行われた時の様子が展示されており、実際に使われた巨大な弾丸や使われなかった人間魚雷、戦艦に残った傷跡などを見て、改めて戦争の悲惨さや無情さを感じました。

「二心不乱・発掘ガール」 文化科学芸員課程

文化科学芸員課程では実践力ある学芸員を養成するために、平成24年から発掘した笹山原遺跡出土資料を用いて、展示学習を実施してきました。その成果が認められ、平成26年には福島県立博物館、27年には「まほろん」において共催企画展を実施することになりました。今年11月3日から12月3日までは「二心不乱・発掘ガール」と題し、笹山原遺跡の発掘調査から整理と旧石器



企画展示の様子

研修に参加する以前、私は英会話に自信がありませんでしたが、今回研修に参加したことで、つたない英語でも現地の方と交流することができ、自信につながりました。他にも、おいしい料理を食べたり、海で泳いだりと本当に素晴らしい体験が出来たので、可能であれば、今後もっと多くの方に参加して頂きたいです。最後に、このような機会を与えてくださった多くの方々に、感謝申し上げます。

人事【新任】(10月1日付)



菅野 桐子
所属 期間限定専任家庭寮職員



小川 健治
所属 家庭寮職員

訃報

山田 幸二先生
元郡山女子大学短期大学部副学長
11月5日死去 84歳

ご逝去を悼み心からお悔やみ申し上げます。



「地域社会の復興と創成をめざして」

第71回 もみじ会

10月7日(土)・8日(日) 華やかに開催される

学園創立71周年のもみじ会が10月7日、8日の両日、同窓会や家族会の参加も得て全学的に開催された。来賓や家族、地域の皆様など昨年度より689人多い5,984人が来学、本学の発展する姿を知ってもらうことができた。



○生活総合コース「県内地域の伝・柄について」

◆大学
【人間生活学科】
「地域に根ざした豊かな生活をめざして」



◆大学院
【人間生活学研究科】
「色彩と空間―色彩の与える影響と効果―」
色彩には、人に対して様々な心理的影響や効果を与えることが知られている。そこで色彩が建物や空間、ファッション等と与える影響や効果を検証し、地域の人々に日常生活での有効な色彩の使い方を提案した。



「レストランもみじ」開設
管理栄養士を目指す学生が、栄養バランスや季節感などを考慮しながら献立を考え、実際に提供した。給食管理実習等を通して学んだ知識や技術の成果を学内外に発信した。



○研究福祉コース「コミュニティ再発見―私たちのまちをよくするために―」
○建築デザインコース「自然と暮らす―ふくしまの木と触れ合おう―」
【食物栄養学科】
「健康と長寿」
日本は長寿国であるが「健康寿命」が長いとは言えない。健康寿命延伸に向けて、食と健康について展示発表を行った。



【家政科・食物栄養専攻】
「健康と食生活を考える―朝ごはんを食べよう―」
「朝ごはんを食べること」の大切さについて展示発表した。



◆短期大学部
【家政科・福祉情報専攻】
「つなごう、ささえ愛の心」
福祉情報専攻の教育内容紹介、手芸作品展示、手作り作品展示、地元農産物の販売「ふくふくカフェ」を運営した。

模擬店

「Maple garden」の開設



【幼児教育学科】

「子どもたち、ひとりひとりが主役！卒業研究発表と子どものあそび」

幼児教育学科の活動内容を発信するために、子どもの遊びについての紹介や展示、卒業研究などの活動の記録、社会福祉などの調査についての研究を発表し、学生によるプレゼンテーションも行った。



【生活芸術科】

「油彩画・水彩画・デッサン」

油彩画は「静物画」「自由課題」、水彩画は「風景画」、デッサンは「人物鉛筆デッサン」「様々な素材を使ったクロッキー」「映像メディア表現」の展示を行った。



【音楽科】

「もみじ会演奏会（短期大学部音楽科・附属高校音楽科・合唱部）」



【文化学科】

「ふくしまの歴史と文化を見直す」

地域社会の復興と創成を「地域文化」の面から考え、郡山の公園を対象に①東山霊園②公園の美学③公園の記念碑をキーワードに展示や実演を通して、地域社会の復興や、創成の可能性を模索した。



【地域創成学科】

「地域創成学科を知ろう！」

平成30年4月に開設される地域創成学科についてパネル等で紹介し、所属教員が質問に対応した。新たな短大の動きに注目！



◆附属高校

【食物科】

「どんぐり食堂の設営」

集団調理実習の学習成果発表。調理師を目指す食物科の生徒全員が心を一つに、おいしい食事を提供。



【高校生徒会】

「マーチングバンド部」

日頃の練習の成果を発揮し、たくさんの方々にマーチングの楽しさを伝えました。



◆附属幼稚園

【幼稚園】

「ぼくたち わたしたちの作品展」子ども達一人ひとりが日頃の遊びの中で描いた絵を展示した。



【幼稚園父母会】

「子どもたちへのプレゼント」

各クラスの父母によるリサイクルで作ったおもちゃを販売した。父母会員の各家庭からお寄せ頂いた品々を「大人バザー」で販売した。



郡山開成学園大運動会

大学・短大大会

きずな！繋げよう みんなの輪！

大学院・大学・短大・専攻科の学生が4種目で熱戦を繰り広げた。

- バレーボール
- アタックNO.1
- ドッジボール
- 「きみに決めた」
- 綱引き
- 「運命を引き寄せろ」
- 借り人競争
- 「わたしの運命の人です」

高校部会

かがやけ☆附属の力 つなごう☆附属の絆

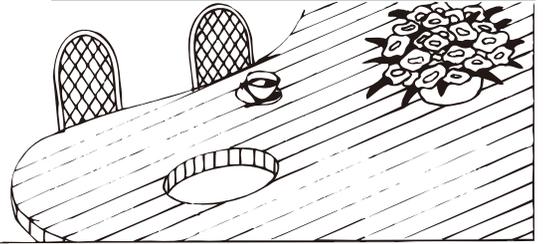
全校生が一丸となり、10の種目で力と技を競った。

- ① 学年対抗綱引き
- 園児との交流
- ② 未来に向かって（玉入れ）
- ③ 希望を繋げ竹竿リレー
- ④ 学年対抗200m走
- ⑤ 部活動対抗リレー（学芸部）
- ⑥ 部活動対抗リレー（運動部）
- ⑦ 障害物競争
- ⑧ 音楽科・美術科400mリレー
- ⑨ 食物科600mリレー
- ⑩ 普通科600mリレー



ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



「父の心と心の欲するところ」に従えども」

相楽 旬子

私の父は今年93歳になりました。毎朝5時には起きて、家の周囲の掃除をし、ゴミを捨て、家の前の菜園に興味で作っている野菜の手入れをします。趣味とは言っても父の畑は本格的で、まっすぐ耕された畝にとりどりの野菜が実ります。収穫したものは近所の方々や、日頃お世話になっている方々にお配りして食べて頂き、それがまた父の喜びというか、生き甲斐となっているようです。

かつて中学校の教員をしていた父は、私にとって常に範たる存在でした。何かで迷ったり、混乱したりした時には、あるべき方向を示してくれました。私も若かったときには、そのあまりの正統過ぎるほどの正統さに、反発を感じた時期もありましたが、父にとつてはそれも織り込み済みだったように思います。大学生の時、私も人並みに恋をし、舞い上がっていた時に父から手紙をもらいました。後にも先にも父からの手紙はこの一通だけでしたが、そのタイミングと内容（これは秘密）は絶妙でした。今も昔も、父にはかないません。



秋の菜園

今、父は全くの自然体で悠々と生きていくように見えます。孔子の言うところの「心の欲するところに従えども矩を踰えず」でしょうか。目下、父の最大の関心事は来年の玉葱にあるようです。種から育てた苗を畑に移したところです。来年も我が家では、実のしまった、甘い最高の玉葱を食べることができるとしよう。

(附属高校 国語科教諭)

「葛尾村夏祭りに参加して」



短大・食物栄養専攻1年 吉田 成海

私は、お弁当サークル(めばえ食堂)のメンバーです。このサークルでは、(株)イオンとの提携によりお弁当の商品開発や販売を行っています。また、葛尾村と郡山女子大学の包括連携協定により葛尾村の特産「凍み餅」を使った商品開発なども実施しています。私は、8月14日に夏祭り「葛尾村盆踊り」に参加し、その凍み餅を使った「しみちゃんおやき」や「しみスティック」「しみ団子入りかき氷」などのアレンジメニューを販売しました。当日は、あいにくの大雨でお祭りが

中止になるのではないかと不安でしたが、時間が経つにつれて人が徐々に集まり始め、あつという間に広場が賑やかになりました。訪れる人の数に比例するように、商品は飛ぶように売れていきました。その中でも「しみちゃんおやき」の人氣が高く、おやきを焼く作業に大忙しでした。私たちが開発した商品が売れていくのを目の当たりにし、「おいしい」と言ってくれるお客さん買ってください村の方々への感謝の気持ちと、提供することの喜びを知ることができました。このような経験を通して私は、なりたい自分になるため、短大で学んだ知識を活かし、社会に貢献できるよう授業やサークル活動に真剣に取り組みたいと思っています。

「念願のインターハイに出場して」



附属高校3年 小林 菜歩

平成29年度のインターハイは南東北で開催され、私が続けてきた卓球は郡山市での開催でした。埼玉県出身の私が附属高校に入学しようと思った理由は、中学時代に出会った深谷先生のもとで卓球に打ち込み、このインターハイに出場したいと思ったからです。入学当初は、親元を離れての生活に戸惑い、慣れることで精一杯でした。部活動では満足できる結果が出せず、辛い時期もありましたし、学習との両立も大変でした。しかし、深谷先生を始めとした皆さんの先生方や、同級生、先輩方の温かい応援があり、今日まで頑張ることができました。



インターハイ全国大会-渾身のサーブ

最終学年となった今年、念願だったインターハイに出場することができました。これは、多くの方々との関わりがあったからだと思っています。技術面や精神面を支えてくださる方々だけでなく、食生活についてもアドバイスをいただきました。大学の先生方からいただいた栄養面についてのアドバイスは、自分ではわからなかったことばかりで、とても参考になりました。そして、家族や、同じ目標を持った仲間達の支えがあったからこそ、達成できたことです。本当にありがとうございます。

私の本棚

『上村松園全随筆集 青眉抄・青眉抄その後』

(求龍堂2010年)

郡山女子大学短期大学部 文化学科・地域創成学科 教授 齋藤 美保子

上村松園は明治、大正、昭和と活躍した女性日本画家。特に美人画で素晴らしい画歴を築いたことは、創学館のネーチャードームで石版画による「上村松園作品展」を常に鑑賞している学園関係者に

は、良く、ご存じのことであろう。画題を探すために謡曲や漢文の教養を積んだ松園は、文章も上手だった。読み本の北斎の挿絵を模写して楽しんでた京都の町娘が、男の世界であった絵描きの道で苦勞しつつも、万国博覧会など海外の展示会で認められ、日本画の価値を高めていった。服飾やポーズを考え抜いて描き出したのは歴史や文学上のヒロインだが、単に美しいというだけでなく、芯の強い真剣に生きる女性像が多い。ヒロインへの作者の思い、表現しようとした美德

を読み解き、制作の背景を理解するには、この随筆集が何よりの助けとなる。松園は昭和23年、女性初の文化勲章を受賞した。これは前年に郡山女子専門学院を創立した関口富左名譽学園長にとつても慶事であった。一芸に秀でた女性が認められるという喜びは家政科保育科に生活芸術科、音楽科、文化学科を加えていく力となったであろう。短大の改組など新たな動きを前に、松園の作品を眺め、随筆を読み、名譽学園長の女子教育への思いを引き継ぎたいものである。

乳酸菌が私たちの体に良いことをご存知だと思います。では、みなさんは乳酸菌をどのような食品から摂りますか？多くの方は、ヨーグルトなどから乳酸菌を摂っているのではないのでしょうか？私も頻繁にヨーグルトを食べます。実は、日本の食卓によく並ぶ料理にも乳酸菌は含まれており、知らないうちに乳酸菌を摂っているのかもかもしれません。例えばお漬物やお味噌です。これらは乳酸菌と他の微生物が協力して出来上がる日本の伝統的な発酵食品ですので、乳酸菌が含まれています。

が、近頃の乳酸菌入り食品は「こんな食品にも乳酸菌が入っているの？」と驚くようなものばかりです。例えば、チョコレートやキャンディ、スナック菓子、麺類、ふりかけなどです。著者が確認した範囲では、これらの食品に含まれる乳酸菌は粉末化したものであり、生菌タイプもあれば死菌タイプもありました。各食品の味や風味を残したまま、乳酸菌を摂ることが出来る食品を開発したものと想像しています。このように、私たち

生活診断室
シリーズ 60
乳酸菌をどのような食品から摂っていますか？
郡山女子大学 短期大学部 講師 澤渡 優喜

第72回国民体育大会 「愛顔つなぐえひめ国体」

- ◆ボウリング
 - ▽成年女子個人 5位
 - ▽成年女子団体 3位
 - 大河内未来(大食・3年)
- ◆新体操
 - ▽個人総合 福島県21位
 - ▽個人種目別
 - フープ 18位 渡邊柚芽理(3年)
 - クラブ 17位 金澤 萌桃(2年)
 - リボン 23位 星 妃羅良(3年)
 - ▽団体 福島県24位
 - ▽団体総合(個人総合+団体成績) 福島県 23位

県高校新人体育大会 新体操 2年連続17回目の優勝

- ▽団体 優勝
 - ▽個人総合 2位 金澤 萌桃(2年)
 - ▽フープ 2位 二瓶 萌椰(2年)
 - 3位 金澤 萌桃(2年)
 - ▽ボール 2位 金澤 萌桃(2年)

バレーボール 国体ベスト16に進出

- ▽1回戦 福島(選抜)2-0三重(選抜)
- ▽2回戦 福島(選抜)1-2東京(下北沢成徳)
- 福島県少年女子選抜選手
 - 監督 佐藤 浩明
 - コーチ 佐々木 淑子
 - 選手 手 佐藤葉菜・橋本美久・橋本菜々・野原彩衣・菅野日菜・細山凜・上原成未(3年)・目黒愛梨・井上美香・佐藤麗奈(2年)・鯉淵千夏・佐藤愛海・朝倉未来(1年)

附属高校のバレーボール部を中心とした福島県少年女子選抜が東北ブロック予選を勝ち進み、4年ぶりに

愛媛国体に出場し、全国ベスト16に

1回戦は三重県に快勝、2回戦は春高バレー前年度優勝校の東京成徳高校に1-2で惜敗。春高バレーが待ち遠しい活躍だった。

生ごみ減量！ 減る！レシビコンクール

- ▽最優秀賞 飯村 菜月(高3年)
- ▽優秀賞 渡邊 恋音(高1年)
- 遠藤 真由(高3年)
- ▽佳作 矢部 若菜(高1年)
- 阪谷 うる(高2年)
- 渡邊 美佳(高2年)
- 石井 茜(高3年)
- 伊野 秀美(高3年)

西会津国際芸術村公募展

- ◆青少年の部
 - ▽大賞 高橋すずね(短大・生芸2年)
 - ▽入選 大沼 恵/坂井 智絵/須賀 愛良/鈴木 彩華/先崎香月(短大・生芸2年)
 - ▽佳作 永山美智佳(高3年)
- ◆一般の部
 - 佳作 5尾坪 大輔(附属高校教員)

*高橋すずねさんの作品は10月21日〜28日まで、東京・世田谷区のギャラリーspace Sで開かれた巡回展で展示された。

第61回郡山市総合美術展

- ◆絵画の部
 - ▽市長賞 高橋すずね(短・生2年)
 - ▽青少年奨励賞 坂井 智絵/鈴木 彩華/村上 実賀子(短・生2年)
 - ▽入選 池田 理紗/先崎 香月/高橋 潤奈(短・生2年)・大場 玲菜(短・生1年)

- ◆彫刻・工芸の部
 - ▽青少年奨励賞 須賀 愛良(短・生2年)
 - ▽入選 坂井 智絵(短・生2年)

第38回牛乳・乳製品利用 料理コンクール

- ▽優秀賞 遠藤 陽奈(短・食物1年)
- ▽優良賞 深堀 優(高2年)
- 県牛乳普及協会主催の第38回牛乳・乳製品利用料理コンクールが10月17日、福島市で開かれ、遠藤陽奈さんが優秀賞、深堀優さんが優良賞に選ばれた。さらに遠藤さんの「魚介とチーズのコラボ手まりすし」は仙台市で行われた東北大会に出場した。

第19回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA

- ▽銅賞 中谷 仁絵(音・3年)
- *全国大会へ

明るい選挙啓発ポスターコンクール

- ◆高校生部の部
 - ▽優良賞 大山 愛未(高1年)

県高校新人体育大会 剣道競技県南地区大会

- ◆団体 2位
- ◆個人
 - 2位 小林 恭子(高1年)
 - 3位 大越 亜季(高1年)
 - 5位 伊藤 風侷(高1年)
- ベスト16 佐々木由翔(高1年)
- *団体、個人ともに県大会出場。

平成29年度郡山市教育委員会表彰

- ▽郡山女子大学短期大学部同窓会 会長 安斉 悦子さん

銚野教授へ功労賞

本大学食物栄養学科 銚野信子教授は、長年にわたり栄養士養成に尽

力した功績が認められ、8月7日(月)、パシフィコ横浜で行われた「第一回栄養の日記念式典」(平成29年度全国栄養改善大会)の席上、表彰された。

ミートデリカコンテスト審査 県予選 板谷さん 最優秀賞・全国大会へ

国産肉を使った創作料理コンテスト「食肉惣菜創作発表会・ミートデリカコンテスト」の県予選が10月29日、いわき市で行われ、附属高校3年板谷潮香さんが最優秀賞に輝き、12月2日から東京都で開かれる全国大会に出場する。コンテストには県内から104人が応募。書類審査を通過した8人が調理審査に挑んだ。優秀賞にも古閑優花さん(大食・1年)が選ばれた。

劇でゴミの減量呼びかける

郡山市主催の3R(ゴミ減量・再利用・資源化)を考えるステージが11月12日、ニコニコ子ども館で開催された。第25回ゴミゼロキャンペーンのフィナーレを飾るイベント。短大・幼児養育学科の学生65人がボランティア活動の一環として参加、好評を博した。学生たちは人形劇やオペレッタを通してゴミの減量や再資源化など呼びかけた。



オペレッタにのせてゴミ減量呼びかけた

短大・福祉情報専攻 もみじ会バザーの益金を 附属高校部活動後援会へ寄付

短大・福祉情報専攻は、10月7日・8日の両日に開催された第71回「もみじ会」で地元の野菜を販売した益金41,210円を附属高校部

活動後援会に寄付した。福祉情報専攻1年の星聖奈さんと大平梨央さんが附属高校酒井和泉生徒会長と佐々木貞子校長に手渡した。また、大学同窓会名倉会長、短大同窓会安斉会長、附属高校同窓会大木会長からもみじ会で実施したバザーの売上金が附属高校の部活動後援会に寄付された。

赤い羽根共同募金に 142,000円の善意

大学・短大友会、附属高校生徒会は年末助け合いの一環として、今年も学内で募金活動を行い、142,000円の浄財を得た。大学学友会会長、短大友会会長、附属高校生徒会会長が11月17日、郡山市社会福祉協議会に寄託した。



▲募金を届けた大学・短大・附属高校の代表

飯村さんが最優秀賞 県きのこ料理コンクール

福島県森林・林業・緑化協会主催の「第2回福島県きのこ料理コンクール」の最終審査が11月23日、郡山市で行われ、附属高校3年飯村菜月さんが考案した「愛LOVE福島湖南産しいたけ米粉焼!!」が最優秀賞に選ばれた。大会には県内の高校生や大学生、主婦らから165点の応募があった。飯村さんは来年3月に都内で開かれる全国大会に出場する。



▲最優秀賞に喜ぶ飯村さん

先輩を訪ねて



大槻 未来さん 平成23年度 短大生活芸術科卒業

もともと絵を描くのが好きで、短大時代は油絵を専攻していた大槻未来さん。在学中は、数々の美術展や絵のコンテストで入選・入賞したり、色彩士検定2級の資格試験にも合格。絵画の他にもデザインや写真CG制作などに取り組み、充実した2年間を過ごしました。

そんな大槻さんが選んだ仕事はパルーンアート。卒業後、郡山市朝日の「Windship」に就職して6年が経ちました。「結婚式場や様々なイベント会場をパルーンで飾り付けたら、コンサートのステージングや花火などを使った特効演出を手掛けています」。挙式するカップルの要望を聞いて、会場の飾り付けを一からデザインしたり、得意の絵を活かしてウェルカムボードを描いたり、表現の幅を広げています。

先日ももみじ会では、後輩たちがデザインしたパルーンアートを一緒に作ったそうです。大槻さんは「何でも思い切って挑戦してみることが先が見えてくると思うので、頑張ってください」と、後輩たちにエールを送ってくれました。

短大音楽部 定期演奏会

短期大学部音楽科の定期演奏会が11月3日(金)、建学記念講堂で開かれ、学生が練習の成果を披露した。今年で48回目。
演奏会は「1つの女声合唱曲」の合唱で幕を開け、クラリネット、ピアノ、ホルン、トランペットなどの演奏が次々披露された。最後に開成学園オーケストラが「威風堂々 第4番」などを演奏し、会場から大きな拍手が送られた。



トランペットとピアノの共演

第199回芸術鑑賞講座 江戸琳派の書画50点を展示

第199回芸術鑑賞講座「江戸琳派絵画展」が10月3日～8日まで、建学記念講堂ギャラリーで行われた。NPO法人江戸琳派継承会、みうらコレクションの協力により、江戸後期の酒井抱一の弟子や、抱一の生涯の友だった谷文晁、書画の亀田鵬斎などの作品50点が展示された。
初日には開場式が行われ、関口学園長が「日本が誇る江戸琳派の絵画を見て学びを深めてほしい」と述べた。7日、8日の両日はギャラリーも開かれた。江戸琳派絵画展は東北では初めての開催とあって、栃木、山形、宮城など、県内外から2000人が鑑賞に訪れた。



テープカット

大勢の来場者が鑑賞

いも煮会

寮友会主催によるいも煮会が、10月14日(土)郡山石筴ふれあい牧場で行われた。
はじめにバター作りを行い、完成したバターを食べ比べながら交流を深めた。その後いも煮会施設へ移動し、いも煮、バーベキュー等の下ごしらえを行い、いも煮が完成するまでの間、「人間知恵の輪」などのレクリエーションでさらに交流を深め、いも煮

が完成すると、みんなで作った山形風しょう油味のいも煮やバーベキューで食欲の秋を満喫した。



おいしいいも煮に舌鼓

附属高校 来春から制服一新

附属高校の制服が来春4月の新入生から、デザインを一新する。
冬服を含めた制服の変更は創立以来初めて。冬服は従来のワンピーススタイルからジャンパースカートスタイルに変更。袖を取り、動きやすいデザインになっている。夏服は、襟がリボンの形をしており、生徒たちの意見を取り入れた斬新なスタイルとなっている。



しめ縄づくり

附属高校食料科3年生が特別講習会で郡山市田村町守山地区に伝わるしめ縄づくりを体験した。
地区の農家に伝わるしめ縄「守山はじめ」を継承する熊田三夫さん、マツさん夫妻の指導のもと、食料科生がJA福島さくららの協力を得て田植えを行い、収穫した稲藁を使い、天の恵みに感謝しながら家内安全を祈願し、心を込めて丁寧に作りあげた。
伝統の技に挑戦!



伝統の技に挑戦!

BOOK 郡山女子大学 大学図書館

新しい本が届きました… 第6回



『イギリス史 研究入門』
近藤和彦著,
山川出版社
請求記号 233||Ko

『すばらしい海洋生物の世界』

アレックス・マスタード
写真,
カラム・ロバーツ文,
創元社
請求記号
481.72||Ro



『名画のネコはなんでも知っている』
井出洋一郎著,
エクスナレッジ
請求記号 723.1||I

『彼女の色に届くまで』

似鳥鶏著,角川書店
請求記号 913.6||Ni



色鮮やかな紅葉の季節は終わり、枝から落ちた葉が木枯らしに舞っている。これから日差しが少なくなり、寒さが増し、カメヤカルは冬眠に入り、冬を迎える。
福島県の家庭では、冬に凍み豆腐、凍み大根、凍みもちなどの凍み食品が作られて、保存食として利用されてきた。原料の豆腐、大根やもちほは、厳しい寒さを利用して凍結乾燥により、保存性が増すと同時に、独特の風味をもった元の食品とは全く異なる食品に変身する。水で戻して料理されるが、完全に元に戻るわけではなく、食感、調理性や食味に独特の特徴があり、凍み食品は優れた伝

木もれ陽

統食品といえる。凍み食品の製造には、厳しい寒さで原料の食品を凍らせる必要がある。地球環境の変化に伴う温暖化のためか、残念なことに郡山では気温が十分に下がらずに凍み大根を製造できない年もある。元々、郡山は盆地にあるためか、冬は寒く、夏は暑い土地である。しかし、今年のように農作物の生育が心配されるほど、夏が涼しい年もある。技術の向上や農家の努力のためか、辛い稲など重要作物の作柄はそれほど悪くはなかった。春には凍み大根料理を食べたいと願っているが、今冬の気候はどうなるであろうか。
(坂)

平成28年度 第62回卒園記念屏風 附属幼稚園



「にじのはし」まつ組

まつぐみのおみんなは、幼稚園からかかった「にじのはし」を渡ったり、小鳥や風船に乗っています。この先にある小学校や未来に向かうすてきな橋です。まつぐみのおみんなが、すてきな小学生に、そして大人になれますように!



「ありがとうのはな」やなぎ組

みんなが、ありがとうの花を持って笑っています。たくさんの花の香りにつられて、虫や動物が集まってきました。自分だけの「ありがとうの花」。どの花も、とてもすてきですね。

紙上美術展 84